

富山大学芸術文化学部・大学院芸術文化学研究科 卒業・修了研究制作展 GEIBUN14（2022）

The 14th Graduation Works Exhibition

●有田行男／富山大学学術研究部芸術文化学系

ARITA Yukio / Faculty of Art and Design, University of Toyama

●Key Words: Graduation Works, Exhibition, Arts & Design

1. 開催概要

富山大学芸術文化学部の卒業・修了研究制作展が14回目の開催となった。本学部では、芸術と社会を結びつけて考える『芸術文化』という概念を礎に研究と教育を進めている。総合大学の中の芸術系学部という全国的にも珍しい環境において、芸術文化を社会に展開する上で必要な幅広い教養や、多角的な視点による思考を身に付ける機会を提供している。この研究と教育の集大成となる本展では、多様で自由な発想をもつ作品・論文の98点（第1会場61点、第2会場37点）を展示し、卒業年度における研究成果を発表した。

■展覧会場・会期

第1会場：高岡市美術館 企画展示室1～3

第2会場：富山大学高岡キャンパス（エントランスホール、ホワイエほか）

オンライン：学部サイト内に特設ページを設置

会期：2023年2月11日（土）～19日（日）（8日間）

■来場者数

3,252人（第1会場2,304人、第2会場948人）

■主催

富山大学芸術文化学部卒業・修了制作展実行委員会（富山大学芸術文化学部、公益財団法人高岡市民文化振興事業団・高岡市美術館）

■共催・後援・協賛

共催：高岡市、高岡市教育委員会

後援：富山県、富山県教育委員会、高岡商工会議所

協賛：高岡短期大学・富山大学芸術文化学部 同窓会「創己会」

2. 運営体制と展示計画

高岡市と大学の関係者で構成される卒展実行委員会を元とし、実務的な運営組織としての卒展委員会と、展示に参加する学生を含めた卒展キュレーター委員会を設置している。2021年度の卒展委員会での議論を踏まえて、GEIBUN13からは卒展キュレーター委員会における学生らの主体性と役割に重きを置いている。その結果として、展示計画班、会場運営班、広報班とも学生らの代表者によるリーダーシップが発揮されて

いると感じる。また、卒展への参加意思についても年度の前半に確認し、自ら展示意思がある学生が卒展を行うという考え方で運営している。このため、展示総数はそれまでの年度よりやや減ったが、学生らの自主性と協調性ある卒展キュレーター委員会となったとも感じる。展示計画についても、卒展キュレーター委員会にて展示計画を立案する仕組みとしており、学生らの代表者による検討、内容をベースに教員らが指南する流れとなる。

このような背景の中で、GEIBUN14では第1会場である美術館展示においては、前年度よりも作品の領域を意識した、ゆるやかな融合展示となった。具体的には、企画展示室1は美術・工芸・デザイン領域の融合展示、企画展示室2はデザイン・建築領域の融合展示、企画展示室3は工芸・デザイン領域の融合展示である。展示空間内に異なる領域の作品が重なりあう展示にも融合としての魅力がある。また、展示空間内において作品の領域がある程度まとめられている展示については見る側の観点としてのわかりやすさがある。それぞれの展示手法にメリットとデメリットがあり、この匙加減が重要であると考え。芸文の特徴である融合教育を体現する最適な融合展示の在り方を今後も探っていく予定である。

3. 高岡キャンパスでの展示の可能性について

第2会場である高岡キャンパスにおいては、展示エリアについて柔軟な対応を行なっている。GEIBUN14では、展示エリアを前年度よりも拡大し、個々の作品による部屋や空間全体を使用したインスタレーションなどの展示が実現している。高岡キャンパスでの展示特性を発揮できるひとつの事例として捉え、今後はライブパフォーマンスなどの実施も可能であると考え。また、高岡キャンパスでの展示環境改善のために、バナーやパネルなどを懸架することができるバナースタンドを新たに導入した。GEIBUN14においては論文展示スペースにこのバナースタンドを活用し、展示空間としての佇まいの改善を行った。今後も、高岡キャンパスでの更なる展示の可能性を探っていきたい。



高岡市美術館 企画展示室 1



高岡市美術館 企画展示室 2



高岡市美術館 企画展示室 3



高岡キャンパス 展示エントランス



高岡キャンパス つままホール



高岡キャンパス ホワイエ



高岡キャンパス 論文展示スペース



高岡キャンパス 個室展示